

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー あきた

第32号

2024年（令和6年）6月30日発行

福祉との連携についての私見

秋田県教育カウンセラー協会代表

佐藤健吉

現代の教育現場において、児童生徒が直面する問題はますます複雑化し、多様化しています。いじめ、不登校、家庭の経済的困難、精神的なストレスなど、これらの問題は個々の児童生徒の学びに大きな影響を与えています。このような背景の中で、私たち教育カウンセラーの役割は一層重要性を増しています。しかし、私たちだけで全ての問題を解決することは難しいのが現実です。そこで、福祉との連携が不可欠となります。

福祉との連携により、児童生徒一人一人に対する支援の幅と深さが格段に向上します。教育カウンセラーは主に学校内での生徒の心理的サポートを担当していますが、家庭環境や地域社会に根ざした問題に対しては福祉の力を借りることが必要です。例えば、経済的な問題を抱える家庭に対しては、福祉機関と協力して適切な援助を提供することで、児童生徒が安心して学べる環境を整えることができます。

具体的な連携の第一歩として、まず教育カウンセラーの実践領域を再確認するとともに、可能な限り勤務地にある主な福祉機関の種類や役割に関する情報を得ることが求められます。いわゆる地域のリソース探しです。これを地区の教育カウンセラーが共有し、「このような場合、〇〇機関についてみてはどうか」といった具合に勤務校の管理職と相談しながら、教育と福祉をつないでいくことでよりよい支援の提供ができるものと思います。本協会ではすでに

この3月に秋田市基幹相談支援センターの専門相談員の保泉朋子氏をお迎えし、福祉の視点からの児童生徒への支援について学ぶ機会を設けております。今後もこういった連携に係る学びの場が必要となると思われます。

また、緊急時には迅速に連携して対応できる体制を整えておくことも重要です。例えば、家庭内暴力や虐待が疑われるケースでは、福祉機関と連携して速やかに介入し、安心・安全な環境を確保することが求められます。もちろんこれには管理職の判断が必要ですので教育カウンセラーの独断では介入はできません。

私たち教育カウンセラーは、児童生徒の成長を最優先に考え、そのための最善の支援方法を常に模索し続けることが求められます。福祉との連携はその一つの重要な手段であり、これを通じて児童生徒一人ひとりが持つ可能性を最大限に引き出すことができると確信しています。

本協会は、福祉機関や医療その他の機関との連携により効果的な支援の提供を視野に入れながら、児童生徒たちが安心して学び、健全に成長できる環境づくりを支えるお手伝いができたらと思っています。本協会のキャッチフレーズ「つなげる つづける つむぐ つみかさねる つたえあう つくりだす」を念頭におき、児童生徒の支援に努めていきたいと思っております。

子どもの支援に携わられている皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



追悼 國分久子先生 ありがとうございます



令和6年2月22日、國分久子先生（NPO 日本教育カウンセラー協会 相談役、青森明の星短期大学 客員教授）がご逝去されました。（享年 93 歳）心よりご冥福をお祈りいたします。笑顔のお写真は、國分康孝先生とともに秋田県支部結成総会にお越し下さった時のものです。設立時からいつも温かいまなざしで見守って下さいました。今回、國分久子先生の講座に参加された皆さんから追悼のメッセージを寄せていただきました。



私の宝物

（代表）佐藤 健吉

久子先生から教えていただいたこと、今でも忘れません。車中で秋田の「なまはげ」の話題になり、娘に「なまはげが来るから言うことを聞きなさい。」と、言って聞かせていることをお話ししたところ、「そんなこと言ったらだめよ。こわがらせて大人の言うことを聞かせるなんて、子どもが萎縮してしまうわよ。」とあたたかく優しい口調で私を諷めてくれました。親として外の権威を借りずに向き合うことの大切さを学ばせていただいたことが何よりの心の宝物となりました。ありがとうございました。

ひだまりのような久子先生

（理事）佐藤 さゆり

「なるほど、そうなのか!」「学ぶことはこんなにおもしろいんだ!」一たぐさんの気づきと学ぶ魅力を教えてくださった康孝先生の養成講座。そんな受講者の私たちと講義する康孝先生を、久子先生は受講席の後ろから大きく温かく見守ってくださっていました。

また、社会人になりたての頃、國分先生の学習会にお招きいただいたことがあります。懇親会ではずっとそばにいてくださり、ホテルに戻ってからの夜食になるようにと、持ち帰り容器におかずまでつめて手渡してくれるお気遣いいただいたことも、今でもはっきりと覚えています。

久子先生は精神分析を語られるときも、康孝先生や私たちを見つめるときも、常にひだまりのような柔らかかであたたかな先生でした。目を閉じれば、また私は先生を感じることでしょう。どうぞこれからも、あの慈しみ深いまなざしで私たちを見守ってくだされば、と心から祈っています。

尊敬する師でありロールモデルであった 國分 久子先生へ

（事務局長）阿部 千春

2000年SGEワークショップの際には、國分両先生の温かさに満ちた眼差しに支えられながら3日間自己分析をすることができました。内観のエクササイズ終了後の久子先生からのコメントは、ダイレクトに私の心に響き、まるで一対一で私に語りかけてくださっているようでした。久子先生のおかげで、これまで抱えていた思いを整理し、新たに前を向いて歩いていく力を与えていただいたように思います。

久子先生は、物腰が柔らかかで、穏やかに振る舞い、常に周りへの気くばりや、心くばり、そして言葉かけを自然にできる先生であり、心より尊敬できる先生でした。秋田での養成講座後に、私のことを理解して下さった上での励ましのコメントは私の大事な宝ものがあります。久子先生への思いは尽きませんが、ここに謹んで哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。合掌



SGE 入門ワークショップ 2011.11.19 (秋田)



國分久子先生

安らかに眠りください

☆☆≡祝 國分康孝賞受賞！代表佐藤健吉先生☆☆≡

5月6日、東京にて本県支部代表の佐藤健吉先生が、國分康孝賞を受賞されました。

國分康孝賞とは本協会本部ならびに支部の活動に顕著な業績を残した方を表彰するとともに、國分康孝先生のご意志を引継ぎ教育カウンセリングのさらなる発展に寄与することを目的とされています。代表は支部設立当時から理論と実際をもってエンカウンターリーダーとして活躍されてきました。（25周年記念パーティ&授賞式：木村優子先生と阿部千春先生も参加）。



受賞者スピーチ

國分康孝賞を受賞して

（秋田県支部長）佐藤 健吉
尊敬する先生の名を冠した「國分康孝賞」を受賞し、このような光栄に浴することができたことを心から嬉しく思っています。その名に恥じないよう、今後も前に進んでいきたいと思います。

さて、これまでの活動を振り返ってみると、初代代表の水戸谷貞夫先生をはじめとする歴代の代表の先生方、事務局の阿部先生をはじめとするスタッフのみなさんと関わり合う中で私は育てられてきたのだと感謝しております。

この場をお借りして、私を支えてくださった多くの方々に心から感謝申し上げます。教育カウンセラーとしては浅学の域を脱しきれずにはありますが、今後とも皆様の期待に応えられるよう、精進してまいりますのでよろしく願いいたします。

栄えある受賞おめでとうございます

（事務局長）阿部 千春

SGE の真髓をより深く理解しようとする真摯な姿勢や熱意には頭が下がる思いです。栄えある賞に輝かれ、古くからの友人の一人として大変誇りに思っております。今後も協会を豊かな方向へと導いてくださることを確信しております。

これからもよろしくお祈いします

（理事）木村 優子

20年ほど前、茨島の教育センターで健吉先生が KEN というカードを下げたリーダーをされてました。心を開くことを理屈でなく実践を通して子どもの立場で実感できました。昨年も変わらぬ SGE を受けほっこりしました。國分康孝賞本当におめでとうございます。



NPO 日本教育カウンセラー協会 25周年記念パーティ 集合写真 (東京)

公開講演会・養成講座 講師の先生方のご著書紹介



講演・講座前の予習として事前に読んだり，終了後にゆっくりと手にとりながら講義を振り返ったり，学んだことを整理することで，より役に立つ知識・技法につながると思われます。

伊藤 美奈子先生（奈良女子大学大学院 教授）

「不登校の理解と支援のためのハンドブック ー多様な学びの場を保障するためにー」

（伊藤美奈子 編著）

不登校児童生徒の数が増加するなか，2016 年末に「教育機会確保法」が制定され多様な方向性が提起されている。本書では不登校支援に長年携わる専門家たちが結集し，不登校の最新の現状を校種別・領域別に紹介し，どのような取り組みが効果的であるのか支援の現場からの報告を加えたハンドブック。支援のワンポイントや現代社会で注目されるテーマを扱う豊富なコラムも掲載。（ミネルヴァ書房 HP より）

藤川 章先生（NPO日本教育カウンセラー協会 理事，東京教育カウンセラー協会 会長）

「エンカウンターで保護者会が変わる 中学校」

（國分康孝・國分久子 監修 片野智治 編集代表 藤川章・加勇田修士・明里康弘 編集）

保護者と教師がともに育つエクササイズ集 話して，聞いて，笑顔あふれる保護者会！保護者会，懇談会，保護者参観行事，PTA会合等で行う，SGEエクササイズ集。子どもたちを共同して育てるための，ふれあい体験による信頼関係づくりが分かる。（図書文化社 HP より）

水上 和夫先生（NPO日本教育カウンセラー協会 理事，対話のある授業みらい研究所 所長）

「スペシャリスト直伝！小学校エンカウンターで学級づくりの極意」

構成的グループエンカウンターを適切に取り入れれば，学級は温かくなり，子どもたちの自己肯定感もどんどん育っていく。エンカウンターをベースにした学級づくり・授業づくりを進めてきたスペシャリストが，数多くのエクササイズとともに，今，その極意を大公開！（明治図書 HP より）

神村 栄一先生（新潟大学大学院 教授）

「教師と支援者のための “令和型不登校” 対応クイックマニュアル」

「えっ，なんであの子が不登校？」——最近，不登校の傾向が変わってきています。これまでと同じ理解の枠組みと対応で大丈夫？本書では，ますます増える「原因が見当たらない」タイプへの対応が学べます。「休むのも一つの選択」となった時代における支援のヒントが得られます。（ぎょうせい HP より）

米澤 好史先生（和歌山大学教育学部 教授）

「事例でわかる！愛着障害—現場で活かせる理論と支援を」

愛着障害の第一人者が，現場に足を運んで支援した50の事例を紹介しながら，愛着障害の「理解と支援のポイント」を整理。「してはいけない対応」も明快に指摘します。現場の「生の思い」「息づかい」が吹き込まれた，現場ですぐに活かせる本です。（ほんの森出版 HP より）

編・集・後・記

代表の佐藤健吉先生が國分康孝賞を受賞されたことは，先生の功績が認められるとともに私たちの活動も認められたことを意味していると思うので大変うれしく思います。

巻頭言にあるように，多岐にわたる問題を抱える児童生徒に対して教師やカウンセラー等ができることは限られておりますし，様々な機関と協力して問題解決に当てる必要があります。私たちは孤独ではありません。子どもたちに様々な手を差し伸べることのできる機関はいくつもあります。目の前の子どもに自分たちができる精一杯の愛情を注ぎ，その子どもが幸せになれるように導いていきたいものです。

末筆ながら，秋田県教育カウンセラー協会を立ち上げる際に國分久子先生が秋田にいらっしやっただときの温かい笑顔が今でも心に浮かびます。國分久子先生のご冥福をお祈りいたします。（NY）